ミニガイド 曲田の教会

曲田の教会の正式名称は「北鹿ハリストス正教会聖堂」といいます。これは大館地方で最初の信徒となった曲田の豪農畠山市之助が、私費を投じて建てたもので、明治二十五年竣工当時の姿のままで現在も建ち、県の重要文化財となっています。

神田ニコライ堂の工事関係者によって、そのビザンチン様式を摸して建てられたものといわれ、戦後二度にわたって土台回りや屋根に補修、改修が施されましたが、現在ある木造聖堂では日本最古のものです。

ドアの取手はアメリカ製。十八世紀初頭の作とみられる「ゲッセマネ園の祈り」をはじめ、堂内に飾られる聖像画(イコン)のほとんどは、聖器具やシャンデリアなどとともにロシアからニコライ堂を経由して運ばれたものですが、中にある明治の女流画家山下りん(エレナ山下=ロシアに留学してイコンを学び、神田ニコライ堂の壁画を描いたといわれる)の作品十七点ほどは、美術史的にも貴重なものとされています。

秋田杉を用いて建てられた十五坪ほどのこの聖堂、外観はきわめて素朴なものですが、内部を飾るイコン、モザイク、彫刻などは、優美にして荘厳さに満ちており、北は北海道から南は九州まで、全国各地から礼拝者が訪れています。

※見学希望の方はあらかじめ、☎52～3606畠山勇太郎さんへお申し込みを。なお、不在の際は市社会教育課(内線255)へお問い合わせください。

ちびっこギャラリー おとうさん

葛原保育所

すがわらさとるくん

いっしょにあそんでくれるからおとうさんすき。おひげもすき。

たむらだいすけくん

パパといっしょにボールなげしたりしてあそんでるんだ。

さとうひろみちゃん

おとうさんおもちゃをいっぱいかってくれるからだいすき。

老犬神社

―忠犬〝白〟哀話―

むかし、南部の草木(現、鹿角市大湯)というムラに、代々定六を名乗る腕のよいマタギが住んでいた。その腕は徳川家康の耳にも聞こえ、南部領主からどこで狩猟してもよいという天下御免の許可鑑札を受けていた。

定六には小牛ほどもある「白」と呼ぶ秋田犬がいつも供をし、定六も白をわが子のようにかわいがっていた。ある日、定六はいつものように白をつれて狩りにでかけ、見つけた猪を鹿角の境の来満峠の峰をも越えて必死に追いかけ、三戸城近くで鉄砲を一発、とうとう射ち果たしたか！と思った瞬間、不思議なことに猪は消えていた。定六は夢見ごこちで苦労も水の泡と、白を呼んで帰ろうとした時、「貴様は何者だ。お城に向って発砲するとはふとどきである。」と、役人が有無をいわせず縄をかけようとしたので、「わたしは天下御免のマタギです。」といいながらいつも首にかけている巻物に手をやると、この日にかぎって家に忘れたのだった。

定六の説得は役人に一笑され、死刑と決まって牢屋につながれてしまった。定六が物言えぬ白に「あの巻物さえあれば…」と話すと、白は「ワン」と一声吠えるや草木の里へ駆けもどった。しかし、白が命がけで巻物を持って駆けつけた時には、定六はあわれ刑場の露と消えていた。白は屍を峠に近い森へ運び、三戸城を眺めては恨みの遠吠えを幾夜も続けた。この森は今も「犬吠え森」といわれている。

その後、ムラ人や武士が馬に乗って、ある場所を通ると必ず馬が狂奔することが起き、そこをよく調べると、小牛ほどもある犬の骨がでてきた。定六の言い分を信じなかった武士への白の怨念であろうということになり、ムラ人は白の供養を行い、老犬神社を建立したと言う。

(大館市史第四巻)

老犬神社の神殿

◇次回は「真中地区」編をお送りします。